

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日: 10月21日(月)

会場: 甲奴健康づくりセンターゆげんき

参加者数: 67人

参加者の発言	市の発言	備考
8月25日にジミーカーターシビックセンター25周年イベントとしてeスポーツの体験会を行った。eスポーツはおそらくオリンピックにも採用されてくるであろう。日本は遅れている。市長にeスポーツ振興に対する認識と評価を聞きたい。	徐々に認識は高まっていくと思う。	
女性会と食生活改善推進委員の立場で発言する。女性会が運営しているカフェ「ピーナッツ」が健塩応援店として認定していただいた。全市的に、三次に住むだけで自然に健康に過ごせるまちづくりを進めていってほしい。市内には12カ所。旧市内8カ所、布野1カ所、甲奴3カ所。健塩応援店を全市的に増やしてはどうか。定住を考える人にもアピールにもなると思う。	野菜は三次の特産で、貴重な地域資源である。特に甲奴町は農業が盛んで、健塩応援店の12件中3件が甲奴町にある。非常にご協力いただきありがとうございます。この取組を全市に広めていくように、現在、食育の担当も飲食業組合や広島県備北事務所と協力しながら進めている。引き続き、食材の提供や活用の協力をいただきたい。	
弘法山キャンプ場。例年は120名前後。今年は上半期で220名。弘法山の周辺には遊具がない。多くは子ども連れなので、遊具の整備をしていただきたい。弘法山の活性化、地域の活性化につながると思う。	遊具の設置や場所等については、観光交流や支所も含めて協議をしていく。	
甲奴町は人がいい、あたたかいと言っていた。これも一つの地域資源。支所、社会福祉協議会、民生委員など身近なところで私たちの生活を見守り、必要に応じて情報提供し、支えてくださる方がいる。三次市のめざす、「幸せを実感しながら住み続ける」ということができていることを実感している。してもらおうという受け身ではなく、自助・互助の努力をしつつ、必要なサポートをしてもらおうという仕組が甲奴町にある。この甲奴の仕組を全市的に広げていってほしい。元気サロンを例にあげると、三次市内では34カ所あり、うち9カ所が甲奴にある。地域に出向いて、情報提供をし、顔の見える関係で地域づくりを伴走してくれる人の力に期待したい。	甲奴町の資源は皆さんだと感じている。健康意識が高い。福祉への精神、意識が高い。国際交流も盛んに受け入れられる。大きな資源だと思う。民生委員や社協の方に頑張ってもらって、サロンの立ち上げをしていただいている。これまでの積み重ねがあって、今では市内で一番多くのサロンが立ち上がっている。こういった体制をこれからも強化していただきたい。高齢者福祉は大きな課題を抱えている。基本は地域で支え合える地域づくりに向け取り組んでいる。こういった地域包括ケアシステムを地域の中で取り組んでいく。	
カーターピーナッツが非常に有名になり、色々な加工品ができるようになった。昨年、広島三越で売ったところ、非常に好評だった。研究を重ねて作った結果だと思う。今年はピーナッツバターに取り組んでいる。しかし、ピーナッツを作るのに有害鳥獣にやられ、すごく苦勞する。学校に植えてもほとんどやられる。対策しようと思っても個人ではできない。どうにかなるものであれば、知恵を貸してほしい。	甲奴町外でも生産者が増えてきているが、面積は伸び悩んでいる。有害鳥獣対策については粘り強く続けていくしかない。生産者の普及拡大やPRについても、支所を含めて努めている。カーターピーナッツは三次のブランド品に認定している。生産振興に対する支援も行っている。研究会への団体活動の支援も行っている。色々な取組を継続するとともに生産者の拡大に取り組んでいきたい。	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月21日(月)

会 場:甲奴健康づくりセンターゆげんき

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
甲奴町の社会福祉協議会は三次市ではトップクラスの活動が行われていると思っているが、一人の職員が必死に頑張っている。来年度から増員されるのか、支所長の常駐をされるのか、具体的に説明をいただきたい。前向きなご意見、ご提案をお願いしたい。	社会福祉協議会の計画があるので、回答はすぐにはできない。社会福祉協議会も地域福祉事業の次年度計画を策定されているようなので、一緒に検討していきたい。増員については、今、お答えはできないが、ご理解いただきたい。	
老人クラブが昭和40年代から続いている。合併前の老人クラブに支給される補助金が今とは全然違う。今は財政難で一律何円という形でもらってるが、合併以前の方が厚く支給をいただいていたように思う。少しでもベースアップをしていただきたい。	非常に財政が厳しい中でやっている状況。老人クラブの本部に事業計画を出してもらいながら、実施計画を策定して予算を組んでいきたい。	
道端の竹が雨や風、雪で倒れ、交通麻痺の原因になっている。通報があれば、支所の職員が朝から晩まで作業をしている。災害が起こる前に処理できるものは処理していただきたい。	支障木の伐採は、通常は道に倒れてきたものは道路管理者が伐採できるが、普通に生えているものは、個人の持ち物であるので勝手に切ることにはできない。県管理、市管理にもよるが、場所が事前にわかるものであれば見に行かせていただき、伐採ができるか判断をしたい。	
コミュニティスクールが今年度から全県立学校で導入されている。子どもが少なくなる＝PTAが少なくなる。複式学級になる＝教員が少なくなる。運動会などの行事も今まで通りできなくなっている。地域の人が学校の運営に協力できるコミュニティスクールという形はとてもいいことだと思う。今後、三次市でコミュニティスクールを採用しようと考えられているか。	ワクワク体験活動でプラネタリウム・天文観察、お米を炊く、カレー作り、竹パン作りなどの環境を整えていただいている。支援をしていただく人がいる地域はなかなかない。自慢の甲奴町。地域資源という意味では、甲奴町はたいへん恵まれている。コミュニティスクールの特徴は、地域の要望・意見に基づいて校長が学校運営をすること。今まで学校を支えてくださった方が高齢化し、新しい世代に代わった時、本当に家庭教育までも一緒になって考えてくださったり、相談に乗ってくださったり、様々な対応も学校とともにしてくださるような地域づくりをしないと、これからの学校はもたない。甲奴でやっている姿が他の町でもできればいいと思う。家庭教育をどのように高めていくかということで、家庭教育支援チームがある。教育委員会としては、学校と家庭、家庭と地域が一緒になって子どもたちを支えていただく形がとれないか考えている。	
アメリカス市との交流事業について、徐々に資金が底をついてきて、受け入れや派遣が厳しくなっている。予算の方を少し多くつけていただきたい。	アメリカス市との交流は第28次となっている。長く続けてこられたことに敬意を表す。補助金については、三次市から三次国際交流協会を経由して、補助対象は子どもの渡航経費の2分の1。大人は補助金対象外である。協会の持ち出しも出てくると思う。今後、国際交流協会とも協議する。今年度は市の予算で随行を1人増やした。今後、長く継続できるように、市として協力させていただきたい。	

令和元年度 まちづくりトーク 主な意見

開催日:10月21日(月)

会 場:甲奴健康づくりセンターゆげんき

参加者数:67人

参加者の発言	市の発言	備考
<p>空き家バンク登録について、納税義務者が被相続人で、市外の人なので、死亡届を住所地で出しても三次市に情報が行くルートがないのではないかと思う。システムの欠陥ではあるとは思いますが、課税通知書に「納税義務者が変わっていませんか」や死亡届出がされた際に、他市町に土地所有などの有無を窓口で確認するなど改善ができるのではないかと思う。</p>	<p>・年間50件程度の物件が登録されている。平成30年度は市外7家族、市内16家族で全体で23件の取引があった。その他、不動産業者の取引があるので、約30件の取引がある。当課では登録者と利用者をマッチングするというサービスを行っている。物件の相続が一番のトラブルになりかねないので、そのあたりは明確にして業務を行っている。</p> <p>・死亡届出時の他市での客体の把握については、非常に大事な視点ではあるが、どこまでできるかということは検討し、できればそういう取組も進めてきたい。</p>	
<p>道路の木や竹について、森林経営管理法が平成31年に施行された。農地中間管理機構の森林版。道路脇の山に運用や解釈が使えるのではないかと思うので、研究していただきたい。</p>	<p>森林経営管理制度は、今年4月から始まった。民有林の中で、杉ヒノキなどの人工造林で適切な手入れがされていないところを対象に、市や林業事業者への委託で適正な管理をしていこうという制度。</p> <p>今後、森林環境税の導入で、制度的に人が拡充になった場合には、山林の様々な整備が考えられるが、現在、広島県では、森林経営管理制度で、民有林の人工林を対象に、適切な管理をし、山林が持つ多面的な機能の発揮と災害を防止する視点で取組を進めている。まずは森林の所有者へ意向調査をしていこうという段階である。</p>	
<p>チェンソーの研修について先日、甲奴支所の職員にチェンソーの研修をさせていただいた。旧町村の職員がチェンソーが必要な場面があると思う。労安規則が変わって、チェンソーズボンなどの安全装備を履かないといけなくなった。他の支所の職員が、安全装備を付けずにチェンソーを使ってけがをすると労災にならないので、装備を揃えるなどを徹底していただきたい。</p>	<p>労働安全の観点からも、しっかりと市の中で情報共有をしていきたい。</p>	
	<p>色々な分野にわたりご意見をいただき、甲奴町の取組やつながりを発見させていただいた。人が人を惹きつけるということをこの場で改めて実感した。それぞれの地域の魅力や思いをしっかりと汲み取り、これから三次市の元気づくりを行いたい。引き続き、甲奴の皆さんの事例や思いに寄り添って頑張りたい。</p>	